

校長室より

二松学舎大学附属高等学校  
校長 鵜飼敦之

## 「二松から飛翔へ」 ～ 一期一会 ～

## 部活動観戦記③ ～野球部～

3日間にわたる中間試験を集中して受験した野球部は、試験終了後、一部の生徒たちが恒例の関西遠征に出発しました。今回は、3年生10名、2年生8名、1年生6名、総勢24名の選手たちが参加する形となり、私も初めてこの遠征に同行しました。

試験を終えた選手たちは、校舎前に集合し、大型バスに乗り込み出発。首都高から東名高速を經由して、目的地である奈良を目指しました。乗車後しばらくすると、生徒たちは次々と眠りについた様子。中間試験に向けて、夜遅くまで勉強していたことがうかがえます。



夕方には奈良に到着。今回の宿泊先は「天理教郡山詰所」という施設で、天理教の信者の方々が参詣の際に利用される場所をお借りしました。入所にあたり、まずは簡単に天理教の教えについてお話を伺い、その後入室。大部屋に学年を混合して12名ずつ、2部屋に分かれての宿泊となりました。入所後はバスで移動し、夕食をとって翌日の天候を願いながら、移動中心の1日目を終えました。

遠征2日目は、朝から京都に向けて出発。目的地は京都外大西高校です。京都市に入った頃には、空からぽつぽつと雨が落ち始めていました。京都市郊外にある同校のグラウンドに到着すると、京都外大西の生徒たちがグラウンドを丁寧に整備して、私たちを迎えてくれていました。

準備運動の後、すぐに試合が開始されました。初回、先頭打者の入山君が、フェンス直撃のあたりを放つなど、打線は序盤から好調。タイムリーヒットを重ねて得点を伸ばし、3塁打も複数飛び出すなど、試合を優位に進める展開となりました。



5回途中には、先発の河内君がピッチャー返しの打球を右大腿部に受けるアクシデントがありましたが、その裏、及川君がマウンドに立ちチームとしての必勝パターンに切り替えて対応しました。その結果、1試合目は10対1で7回コールド勝ちとなりました。



続く2試合目は、雨脚が徐々に強くなる中で行われました。試合は拮抗し、7回表で3対3の同点という状況でしたが、残念ながら雨天コールドとなり、勝負はつかずに終了しました。

3日目の最終日は、朝5時30分の時点でグラウンドコンディションの不良により、予定されていた奈良県立郡山高校との試合が中止となってしまいました。雨はすでに上がっていたものの、グラウンドの状況には勝てません。悔しさの残る判断ではありましたが、現地の郡山高校の監督やスタッフの皆様にご挨拶をして、帰京の途につきました。

この関西遠征は、市原先生が監督に就任された直後から始まった歴史ある遠征合宿であり、これまでにはPL学園、上宮高校、大阪桐蔭高校など、全国屈指の強豪校との定期戦も組まれていたという伝統ある行事です。今回は残念ながら1日だけの試合となりましたが、選手たちにとっては貴重な実戦経験となりました。

この試合を皮切りに夏の選手権大会に向けて、近隣の強豪校との練習試合が続いていきます。選手一人ひとりがさらに力を伸ばし、チームとしての連携力を高めて、春夏連続での甲子園出場を目指して努力を重ねてくれることを期待しています。そして、野球部の活躍が二松学舎全体に元気を与えてくれることを願っています。

遠方まで足を運び、応援や激励をしてくださった保護者の皆さま、関係者の皆さまには、心より感謝申し上げます。今後とも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

